

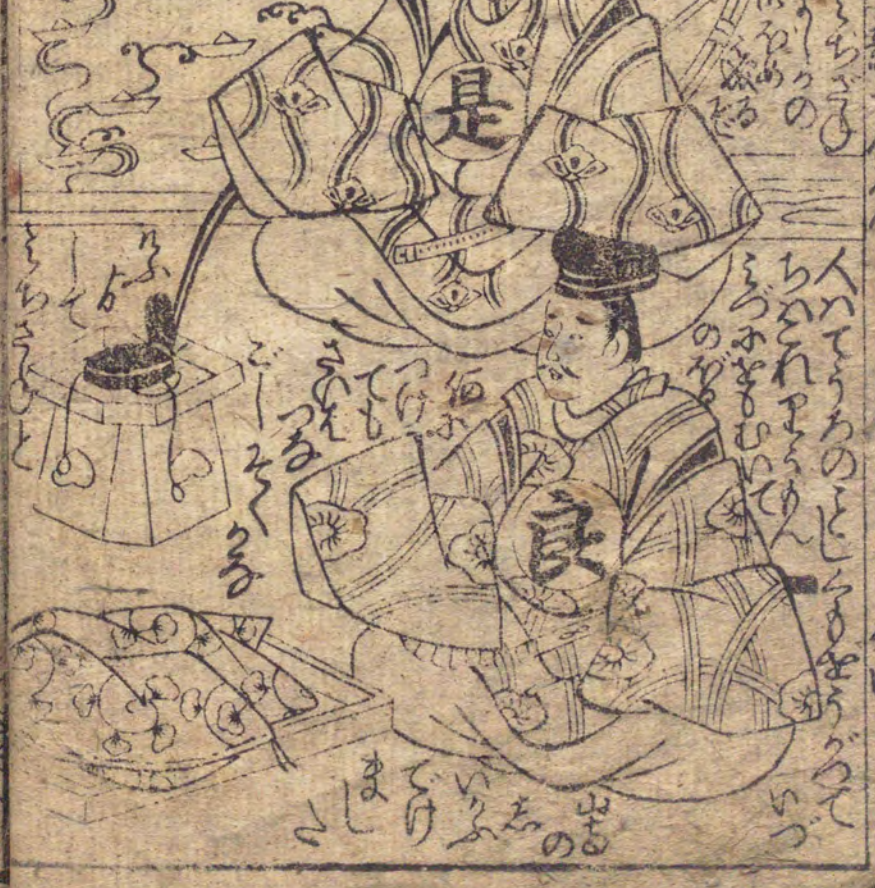
新天神記

十册合本

福九十八身あり
 多し人のこれ世
 ありてはひまら
 るくはらんあま
 くもをあら
 ためすはりの
 とちさうとを
 るつけあはは
 とすあうりあ
 ぶぶんのま
 つりかたり



人如鳥路
 穿雲出地
 是龍門越
 水登
 菅原道真





あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの

あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの
あつちの



比附
 左上の
 物もあ
 附年と
 ともぎ
 三つうの
 ぐうのと
 ぬんあ
 まつり
 せこあ
 ともぎ
 うりし

宇田の天王
 西のんさ
 西のんさ
 たま
 天王



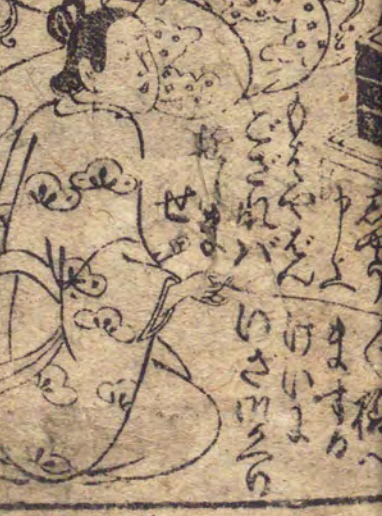
寛平元年七月三日
 あひと
 由年十三
 中なり
 日さん
 帝



こころのいけ
いんげんあま
け付いりてり
やうれいあり
まへもひあせ
こそあめあふ
ひあもこそあ
人あめあふ
そあめあふ



あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ



あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ



あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ

あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ

あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ
あめあふ



らにまのちやうと
 とて日やあつこの
 だんやあつこの
 空ののちやうと
 つくへこのの
 信このの子あつこの
 十の年のあつこの
 ありんこののちやうと
 ありんこののちやうと

七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 百



らにまのちやうと
 とて日やあつこの
 だんやあつこの
 空ののちやうと
 つくへこのの
 信このの子あつこの
 十の年のあつこの
 ありんこののちやうと
 ありんこののちやうと

七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 百

おきうやうたんをうま
 味まうやうのまふ
 久きあかしのくら
 まうんれは
 ちんそてまう
 のやうんえ
 らんれいのり
 のひーふちるふ
 わるよん人の
 とくがくお
 二定とびわう



人ハ
 宮
 入
 あり



此の
 あり





いづれにや八王もえどゆひあらし
とくはつとちきりゆふいしよひな
由志のひあてあらしは
よりゆまけてそのよ
あむこともあまあり
いづれにや

えてあまの
よひあらしが
いづれにや
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



いづれにや八王もえどゆひあらし
とくはつとちきりゆふいしよひな
由志のひあてあらしは
よりゆまけてそのよ
あむこともあまあり
いづれにや

いづれにや八王もえどゆひあらし
とくはつとちきりゆふいしよひな
由志のひあてあらしは
よりゆまけてそのよ
あむこともあまあり
いづれにや

あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの
あまの



目下のがしやうはこれなり
 楠の本もまよりのなれ
 花もよくくちりて
 時年次や
 大のしん
 くのうくむらひ
 かのうせしす
 さんかして楠めまより
 めいちりら林
 やうびん記
 々々

新編
 天竺
 記

これ
 せん
 じ



あつらひしん人の
やぐもくまんの
大いんまんの
あつらひ

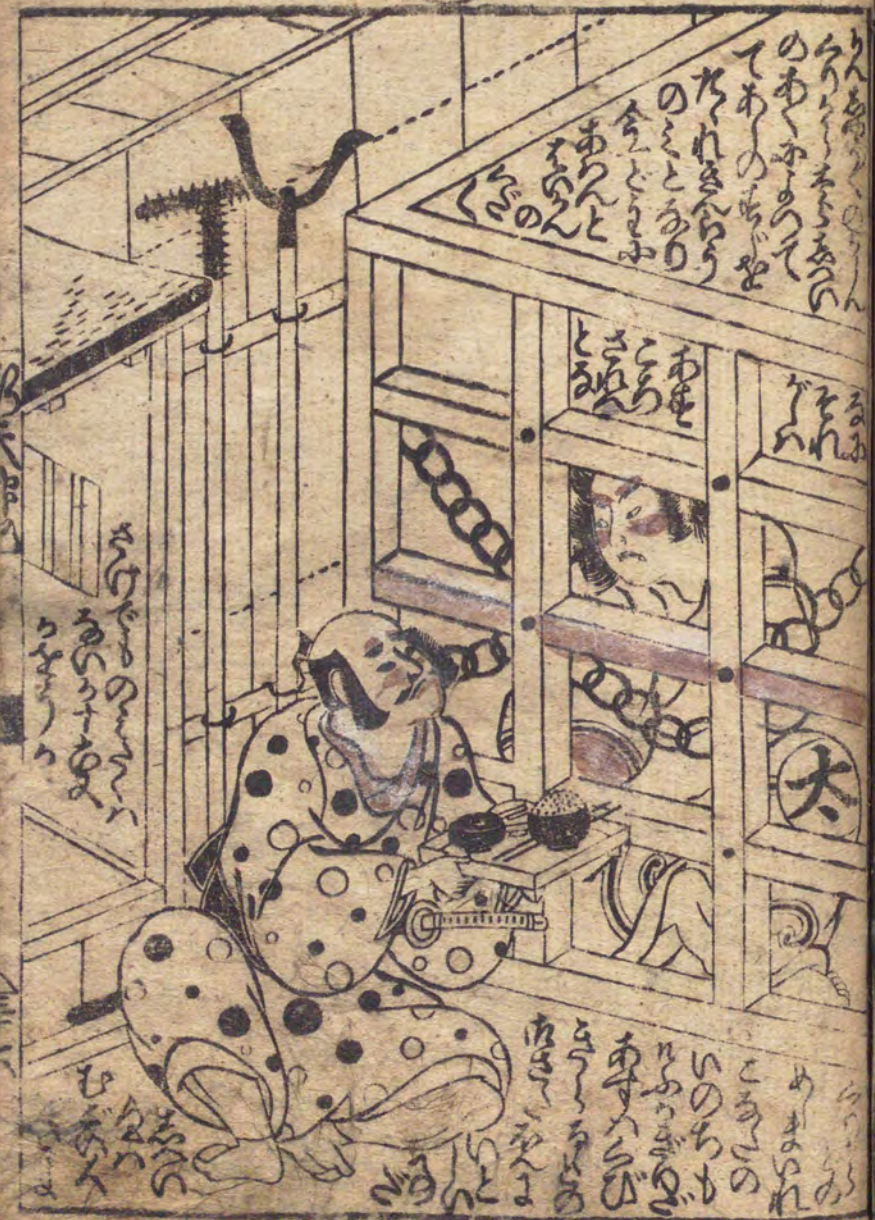


あつらひしん人の
やぐもくまんの
大いんまんの
あつらひ

あつらひしん人の
やぐもくまんの
大いんまんの
あつらひ

あつらひしん人の
やぐもくまんの
大いんまんの
あつらひ









千のまも天海文へ天徳日のまの徳徳にいへり天徳の
世十号へ。好去。及良。道徳。及真。道真。及真。道
真直。真直。道真。良道。

ゑえづくてありいすち子供物とふとあるへんぐんぐも
へ天徳文秘中のひまられたらふわらうと

▲つうとふのたがをまをぬくた実たへてとふくもは

▲徳あふ山下あまおくれれて純どうもまおまひとあま

▲敵のまをまこのそらまもまをまののわりわけの月

け三育の津海へ管系相代かきまをまこれまを

附天徳の徳徳あつて奇子まのせまひその人代

むまのあんとまぬくれ息あんかい子徳まうた

かひの一事を男どうまをまとしてまそらまのひまへん

